

私学の魂

國學院大學久我山
中学高等学校

今春、STクラスの第1期生を送り出し その成果と手応えをバネに進化する “きちんと青春”の男女別学校、 國學院大學久我山の「男子道&女子力」

渋谷、新宿、吉祥寺という都内有数のターミナル駅から、いずれも30～40分以内で通学が可能な立地にありながら、周囲には玉川上水のせせらぎと豊かな緑の残る杉並区久我山の地に、日本の私立中高一貫校のなかでも独特の光彩を放つ、國學院大學久我山中学・高等学校があります。

現在では都内唯一となった「男女別学教育」校として、キャンパスは男女一緒でも、校舎は男子部・女子部に別れた環境のなか、それぞれの特性や成長に合わせた授業スタイルと学習指導のノウハウのもとで、男子も女子も、各自の高い目標に向けてメリハリの効いた日々の学校生活を送っています。

そうした同校の教育の特徴とめざすところを、2013年4月から校長に就任している今井寛人先生と、入試対策部部長の竹内浩史先生にお話を伺いました。



校長 今井寛人先生

DATA
1

國學院大學久我山中学高等学校

沿革 1944年 財団法人岩崎学園久我山中学校開校
1952年 学校法人國學院大學と合併、校名を國學院大學久我山中学校・國學院大學久我山高等学校に改称。
1991年 中学校第1学年に初の女子生徒入学
1994年 教育組織を高等学校は男女併学制に改組
2008年 中学にSTクラス発足。学習センター、人工芝グラウンド完成

校長 今井 寛人

所在地 東京都杉並区久我山1-9-1
TEL: 03 (3334) 1151
http: //www.kugayama-h.ed.jp/

交通 京王井の頭線「久我山」駅より徒歩12分

難関国公立大学への進学をめざす「ST クラス」設置から7年目を迎え男女ともに確かな手応えと成果が…。

いまから7年前の2008年入試から、國學院大學久我山中学校は、「ST入試（＝STクラス選抜入試）」を（初年度は2月1日午後）に導入しました。

「STクラス」とは、「SummiT（頂上をめざし）」、「StraighT（まっすぐに）」、「SpiriT（気概を持って）」というスローガンの「SとT」の文字から名づけた、最難関国公立大学の現役合格をめざす、6年間一貫した特別進学クラスです。

それまでも、國學院久我山高校の卒業生の男子は約9割、女子は約8割が、系列の國學院大學以外の国公立大学や難関私立大学に進学していましたが、この「STクラス」を設置することで、難関国公立大学への進学を目標に掲げ、さらに本格的な進学校として、男女とも、もうひとつ“高みをめざす”姿勢を明らかにしたのが、この2008年の入試改革でした。

そして今春2014年の大学入試に、その「STクラス」第1期生が挑み、それぞれの進路に巣立っていきました。初年度の「STクラス」卒業生は、まだ男子34名、女子30名という少ない人数。そのなかで、国公立大学には24名（男子15名、女子9名）が合格、国公立・早慶上智・私大医学部には32名（男子19名、女子13名）が合格という、力強い成果を見せてくれました。

その成果について、校長の今井寛人先生は、

「男子・女子ひとクラスずつの少人数であったことを考えると、なかなか良い合格率で、生徒はよくがんばったと思います。しかし、世間の期待値はもっと高かったかもしれませんので、来年以降に向けて、私たちはもっと工夫していきたいですね」と言います。

来年2015年3月に卒業する「STクラス」第2期生からは、男子が2クラス体制となってさらに人数が増えていることから、来春以降の大学入試での成果はさらに厚みを増すことは間違いありません。



知識や教養を培う授業は男女別々。それぞれの性差や特性を緻密に分析し、久我山独自の授業を展開します。

そして國學院久我山の大学進学における実力は「STクラス」だけが発揮しているわけではありません。もともと本格的な進学校として着実に成果を伸ばしてきた同校の、さらなる全体的なレベルアップを牽引する存在が、この「STクラス」の生徒たちなのです。

そして現在の中学入試では「ST入試」が2月1日午後と2月3日の午後の2回にわたって行われており、さらに一般入試も2月1日、2日、5日の計3回行われているため、國學院久我山をめざす受験生にとっては、受験機会がさらに広がっています。

都内唯一の「男女別学校」ゆえの男女の絶妙な距離感と緊張感が互いの長所を思い切り伸ばす

そうした國學院大學久我山の教育の大きな特徴は、「男女別学」であることです。正門からキャンパスに入ると、右手に男子部の校舎があり、中央の理科大学会館と右奥の学習センターとを挟んで、校地のいちばん奥に女子部の校舎があります。



入試対策部部長 竹内浩史先生

通常の授業は男子部、女子部それぞれの校舎で行われ、学習センターにある食堂や図書館では、昼休みや放課後に男女が一緒に談話する風景が見られます。文化祭、体育祭などの学校行事や、文化部などの活動は男女一緒に行われます。

國學院久我山が「男女別学」にこだわる理由のひとつが、心身の成長曲線や性格的な特質が異なる男子と女子にとっては、授業が別々であるほうが、学習効果があがるということです。それでいて授業以外の場面では、男女が力を合わせて、互いの特性を尊重しながら協力や刺激をし合える環境であることが、男子校や女子校とも大きく違うところです。

「女子は授業のなかでも、一つひとつ納得しながら学習を進めていけるスタイルを好みますし、分からないところはじっくり質問しがります。納得して自信をつけると確実に伸びていきます。逆に男子は、どちらかというとスピーディーな授業や、競い合って難問にチャレンジするような授業を好みます。分からないことでも少しヒントを与えると、後は自分で考えたがります。互いの特質に合わせて授業をしようとする、自ずと進度や質問対応の仕方も変わってきますね」と、入試対策部長で、今年も高3の理科を担当する竹内浩史先



中1～中3まで実施される自然体験教室。男女それぞれの課題をクリアすることで、人生に待ち受けるハードルを乗り越える力を養います。

生は言います。

男女別学の利点は、ふだんの授業だけではありません。文系と理系コースに分かれる高2と高3の後期課程の選択演習では、男子と女子が一緒に受ける講座もありますし、高3の夏休みに行われる合宿講習でも男女一緒に勉強する場面もあります。

「男子の一気に長時間勉強するパワーや集中力に女子が刺激を受けることもありますし、女子の丁寧さや真面目さに、男子が見習うこともあります。その一方で、互いの目標に向けて、男子・女子それぞれにクラスの仲間が団結して、励ましあって大学受験に挑んでいく雰囲気もありますね」と竹内先生。

久我山祭（文化祭）などの学校行事では、男子と女子が協力して、互いの特質を生かして、ひとつの行事を作り上げていく一体感もあります。

将来の進路や生き方を考え、目標を定めていくためのキャリア教育にも、精神的な成長が早い女子は中学2年次から、進路を具体的に思い描くのが女子に比べて遅く、それでもラストスパートの効く男子は中学3年次から本格的に取り組むなど、男女の違いを考えたプログラムが組まれています。

また、校内での学習プログラムに加えて、校外学習の多彩なプログラムがあることも國學院久我山の特色です。代表的なのが、中1から中3まで各学年で行う「自然体験教室」。男女それぞれに行き先は同じ（中1は信州、中2は白根山・尾瀬、中3は北海道）ですが、微妙に内容を変え、大自然のなか、机上ではできない体験を通して人間的な成長を促します。社会的で礼儀正しい女子はステイ先でとても大事にされますが、その一方で、素直で身体を動かす作業も厭わない男子は、やがて好感を持たれて可愛がられるといいます。

このほか、校外学習の一環として行われる職場訪問（中2女子）、博物館・美術館見学（中2女子）、テーブルマナー（高2女子）や、田植え体験（中3男子）、をはじめ、武道大会（高2・高3男子）、寒稽古（中3・高2男子）、球技大会（高1・高2男子）イングリッシュ・サマーキャンプ（中2・中3女子希望者）、合唱祭（中女子）、創作ダンス発表会（高1・高2女子）などの

行事は、男子部・女子部それぞれ別に行われます。一方では、英語スピーチコンテスト（中3）、芸術鑑賞会（中学）、弁論大会（高1）、英国語学研修（高1希望者）、御岳合宿講習（高3希望者）スキー教室（中高希望者）など、男子・女子共通で行われる行事も多彩です。

こうした盛りだくさんの行事を四季折々に経験しながら、学習にもしっかり取り組むメリハリのある学校生活が、國學院久我山の特色といえるでしょう。

当たり前のことをしっかりと行い 社会で求められる人間力を育む 國學院久我山の“きちんと青春”

そんな國學院久我山が一貫して掲げ続けてきたスローガンは「きちんと青春」。多感な中高生の時期に、多様な経験をしながらも、自分の目標に向けて真っ直ぐに努力し、好きな部活動や行事にも全力で打ち込む、久我山生の姿を言葉にしたものです。

学外でも生徒の服装や立ち居振る舞いが、現代の中高生としては折り目正しく見えることから、生活面の規則も「やや厳しめ？」と思われることもあるようですが、「そんなに厳しくはないですよ」と校長の今井寛人先生は言います。

「ただ、制服をきちんと着るとか、時間を守って挨拶をしっかりとするとか、社会に出れば人として当たり前求められることはしっかり守らせませす。ですので、本校の卒業生は、大学生になってからの就職活動のときにも好感を持たれることが多いと、企業の方々から感想をいただいています。これは誇れることかもしれませんね」と今井先生。

もうひとつ、文字通り“文武両道”を実践する私立中高であることも広く知られています。高校のラグビー、サッカー、野球、バスケットボール、陸上、剣道などは全国レベルの強豪校。中学でもラグビーやサッ



スポーツ強豪校としても知られる國學院久我山。応援には当然、女子生徒も駆けつけます。男子生徒も気合十分！この微妙な「距離感」が生徒のやる気を刺激します。

カーでは全国優勝の経験があります。そうしたスポーツで活躍する多くの生徒が、勉強と部活動を立派に両立させていることも、久我山が誇る伝統です。サッカーやラグビーなど、年末年始の全国高校選手権大会に出場した高3の生徒が、大会後すぐの大学受験でも健闘し、みごとに難関の国公立大学や早稲田・慶應義塾大などに合格していることは、毎年エピソードとして語り継がれています。

こうした部活動で全国レベルの戦績を残しているのは男子部の生徒ですが、女子部の生徒も、限られた練習・活動時間のなかで努力を重ね、最近では吹奏楽部やダンス部など、東京都で金賞や全国大会で高位に入る活躍をみせる部も増えています。

部活動でも勉強でも学校行事でも、幅広く「きちんと青春」を満喫できる國學院久我山。その真骨頂が、こうした部活動の活躍に現れています。

日本人の文化をしっかりと身につけ そのうえでグローバルな活躍をめざす 國學院久我山の「男子道&女子力」

昨今、グローバル人材の育成が叫ばれていますが、國學院久我山では、むしろ自校がこれまで重視してきた日本の文化や、日本語を正しく使える力を身につけることを重視しています。

男子部が取り組む武道は、中1で柔道必修、中2で剣道必修、中3から高3では柔道か剣道を選択し、自己鍛錬に励みます。一方の「女子特別講座」では、中1で言葉について学び、中2で華道実習、中3で茶道実習講座を実施。高校生になると能楽や日本舞踊など日本の古典芸能を体験します。これらの特別講座の目的は、国際化社会だからこそ必要になる日本人としての心を身につけることです。これらの体験は、國學院

大學久我山が考える「男子道」と「女子力」を育てる大切な教育プログラムといえるでしょう。

グローバル化の対応にも、数年前から積極的に取り組んでいます。今春卒業したSTクラス第1期生の学年から女子部の中2・中3を対象に導入されたイングリッシュ・サマーキャンプは、女子の英語によるコミュニケーション力を格段とアップさせました。その経験をした生徒たちは、アメリカ人学生との生活と多彩な交流プログラムを通して、さまざまな自信を深め、同時に自分の生き方や進路を考えることに積極的になったといいます。そのキャンプもすでに7年目、さらに希望者が増えて、生徒と保護者の満足度も高まっています。

高1の希望者を対象にした英国語学研修には、男子も女子も参加しますし、海外の大学への進学を希望する生徒も増えています。

東京大学とハーバード大学が共同して取り組む国際交流のプロジェクトでは、今年の日本の学生代表を國學院久我山の卒業生が勤めたといいます。

日本の文化を身につけ、海外の人に向けても日本人の大切にする「心」や「道」を伝えることのできる久我山生は、今後のグローバル社会でも、きっと重要な役割を果たしていけるでしょう。

「数学や理科などの教科はもちろん、外国語を学ぶときにも、異性の目を気にせずに発音や音読ができるという学習しやすい環境があります」と今井先生。

一人ひとりが自分を見つめる時間、力を合わせて何かを創りあげる時間、その両方を満たす「ちょうどよい男女の距離」が保たれている國學院大學久我山の「男女別学教育」。その雰囲気を知るには、一度学校に足を運び、男子部・女子部それぞれの生徒たちの、屈託のない笑顔を見てみることをお勧めします。

DATA
2

2014年大学合格状況・抜粋

国公立大学		私立大学	
東京大学	3	早稲田大学	72
東京工業大学	2	慶應義塾大学	46
一橋大学	3	上智大学	37
北海道大学	2	東京理科大学	50
筑波大学	2	学習院大学	20
電気通信大学	2	明治大学	129
東京外国語大学	1	青山学院大学	33
東京学芸大学	3	立教大学	75
東京藝術大学	1	中央大学	69
		法政大学	36
		東京農工大学	2
		首都大学東京	14
		東北大学	3
		神戸大学	1
		千葉大学	6
		横浜国立大学	5
		お茶の水女子大学	1
		大阪大学	1
		横浜市立大学	2
		その他	10
		計	64
		北里大学	7
		杏林大学	6
		東京慈恵会医科大学	2
		国際基督教大学	6
		津田塾大学	7
		東京女子大学	26
		東京薬科大学	7
		星薬科大学	4
		関西学院大学	1
		立命館大学	5